地域の教育力が、子どもたちの生きる力を育む

【周防大島町　安下庄中学校区】

地域の概要

安下庄中学校区の中心である安下庄・日良居地区は三方が山に囲まれ、一方が瀬戸内海に面しています。風光明媚（び）な地域で大島富士と呼ばれる嵩山は有名です。平素から学校・家庭・地域のつながりが強く、学校に対して非常に協力的な地域です。自然豊かで、地域の力を生かせる最高の環境です。

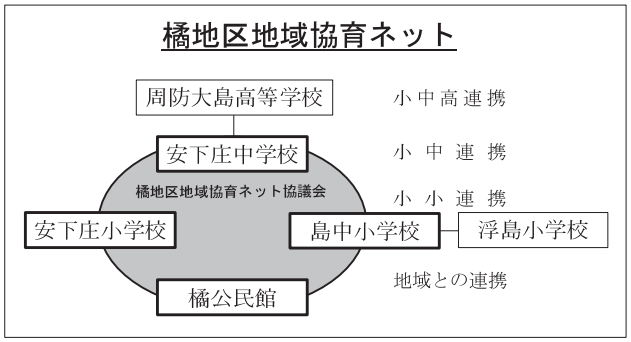
人　口		2,450人
世帯数		310世帯
対象校及び児童生徒数	安下庄中学校	61人
	安下庄小学校	73人
	島中小学校	29人

組織の内容

一昨年度から、橘地区の小・中学校を中心とした「橘地区地域協育ネット」を立ち上げ、学校関係者、地域関係者が参加する協議会を開催し、学校と地域のつながりを一層深めていきました。

「橘地区地域協育ネット」は、３校の校長、教頭、教育活動推進員、会議の運営をサポートする公民館長と社会教育主事の 11 名で構成しています。

地域協育ネット協議会は、年２回開催し、橘地区で「めざす子ども像」や各校からの情報提供や要望等について話し合いました。また、公民館で立ち上げる学習センターについて、実施日や指導体制を確認しました。



安下庄中学校区においては、学校関係者、保護者、地域の方、約 30 名で「どんな人に育ってほしいですか」というテーマで「熟議」を行いました。全体進行は町のコミュニティ・スクール・スーパーバイザーが行い、ファシリテーターは指導主事２名と社教主事が務めました。「熟議」では参加者から活発で率直な意見が多く出されました。事後のアンケートには「もっと話したかった」「日頃、思っていたことを伝えられてよかった」という意見が多く、大きな手応えを感じました。講師の日本大学、佐藤晴雄先生にも「熟議」の様子を見ていただき、具体的な指導助言をいただいたことで、今後の取組を進めていく上で大きなヒントを得ることができました。

「熟議」の様子

特色・重点的な取組

○地域の方とのふれあい・地域貢献につながる取組

学校の畑を地域に開放し、収穫の喜びを分かち合う活動を展開しました。また、中学生ボランティアが地域のイベントに参加しました。これらの活動を通して、学校と地域のつながりが深まりました。

○高等学校と連携した福祉体験学習と地域の高齢者の方との交流

高等学校での福祉体験学習を生かして、ディサービスセンターにおいて地域の高齢者の方と交流しました。専門的な福祉体験学習の経験を生かし、より一層、充実した交流になりました。

○地域ぐるみの防災教育

保・小・中が連携して防災避難訓練を実施しました。校区は海抜が低く、地震の際には津波の危険性があるため、隣接する学校等が合同で訓練できたことは、危機管理の面で大変有意義でした。

主な活動の紹介

○地域の方とのふれあい・地域貢献につながる取組

島中小学校では、月に一度「島中ふれあいタイム」を行い、児童と地域の方がふれあう活動をしています。学校の畑を地域に開放した「島中コミュニティガーデン」では、ピーナッツや里芋の収穫を一緒に楽しみました。

ピーナッツの収穫

安下庄地区では、毎月第４日曜日には「安下庄『海の市』」が開催されます。今年度も６月の「海の市」に、職場体験学習の一環として、安下庄中学校２年生が販売スタッフとして参加しました。地域で行われるイベントへの参加を通して、販売や接客業務の難しさや楽しさを感じ、働くことへの心構えをもつことができました。また、自分ができること、自分がしたいこと等について考える良い機会となりました。

「海の市」での接客業務体験

○高等学校と連携した福祉体験学習と地域の高齢者の方との交流

島中小学校の３・４年生が周防大島高等学校で福祉体験学習をしました。この体験を生かして、学校近くの「しらとり苑」（ディサービスセンター・生活支援センター）で高齢者の方と交流しました。遊びだけでなく、肩もみや会話等、高等学校における福祉体験学習の学びが生かされました。

福祉体験学習の様子

○地域ぐるみの防災教育

安下庄小学校と安下庄中学校は、合同で避難訓練を行いました。指導者として大島商船高等専門学校の先生をお招きしました。いつ発生するかわからない地震に備え、高台をめざして中学生と小学生が手をつないで避難しました。

避難訓練の様子

島中小学校は、日良居保育所と合同で、地震・津波の避難訓練を行いました。第二次避難場所である土居坂駐車場に避難する際には、地域の見守り隊の方に交通指導をしていただきました。その後、山口県防災センター所長の指導を受け、更に、保護者への引渡し訓練も後日、行いました。

成果と課題

成果としては次の２点が挙げられます。１点目は、地域の方とのふれあいや地域行事への参加を通して、交流や支援の輪が広がり、郷土「安下庄」への思いが浸透したことです。特に普段ほとんど話す機会がない地域の方との積極的な会話等で児童生徒にとっては地域がより身近になり、高齢者の方にとっては、地域の子どもを知る良い機会になりました。２点目は、保育所と小学校、小学校と中学校が協働して防災教育を行うことで、防災に対する子どもたちの意識が高まっただけでなく、保・小中の連携が小１プロブレムや中１ギャップの解消につながっていく取組であることを教職員が認識できたことです。

課題としては、すべての活動が必ずしも計画的に実行されたとは言えないことです。そこで、今後は年度当初から学校運営協議会や関係者・関係機関としっかり打合せを行い、地域に活動を周知することで、地域と更に連携・協働した活動にしていく必要があると考えています。

今後の取組

多くの人とのふれあいを通して、子どものみならず、保護者や地域の方の意識も変わりつつあります。「子どもは地域から知恵をいただき、地域は子どもから元気をもらう」という双方にとってメリットのある活動を今後もめざします。また、地域の核となる公民館や各種団体との連携を図り、学校が主体的に地域とかかわることで、地域との絆（きずな）をより強固にしていきたいと考えます。